

先の 4 月 19 日(日)に行われた新試験制度 1 回目となる平成 21 年春期の情報処理技術者試験について、先月発表された IT パスポート / 基本情報 / 初級シスアド試験以外の 6 試験の合格発表がありました。同時に発表されたスコア分布などの統計データをもとに、システム監査技術者試験の合格発表コメントをお知らせします。

システム監査技術者試験 (AU)

〔平成 21 年春期のシステム監査技術者試験 統計情報〕

応募者	5,313 人
受験者	3,271 人
合格者	455 人
合格率	13.9%

システム監査技術者試験は、内容的に従来のシステム監査技術者試験と同等のレベル・内容で実施される試験ですが、従来、取り上げられることのなかった組込みシステムの事例も午後試験で取り上げられることになりました。また、新試験から従来の午前試験が午前（共通知識）と午前（専門知識）の試験に分かれました。

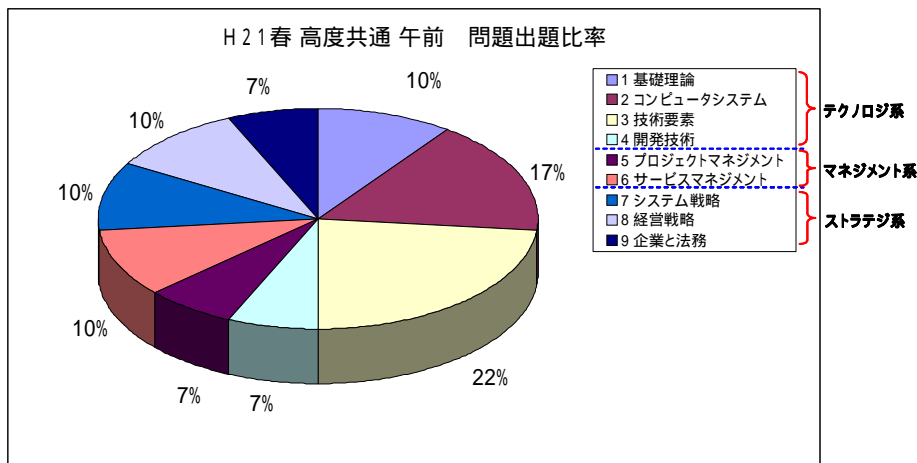
第 1 回目の実施となる平成 21 年春期のシステム監査技術者試験では、昨年の平成 20 年春期のシステム監査技術者試験に比べ応募者が 2,000 人ほど減りました。合格率は昨春の 10.2%より増加し 13.9%で過去最高でした。

〔午前 の高度試験 共通問題〕

・高度試験に共通して出される問題 30 問は、すべて応用情報技術者試験 (AP) から選ばれていました。過去問題の比率は約 6 割で、新試験になったことが理由と思われるが従来より少なくなっています。新傾向または新しい用語に関する問題は次のとおりです。

- 問 7 (= AP 問 21) 代表的な OSS,
- 問 9 (= AP 問 25) Web ページに情報を表示する目的
- 問 11 (= AP 問 32) 概念データモデルの解釈 (UML 記法),
- 問 15 (= AP 問 41) 不正侵入のための経路 (バックドア),
- 問 27 (= AP 問 70) TLO 法 (大学等技術移転促進法)

平成 21 年春期の高度試験共通 午前 問題出題比率



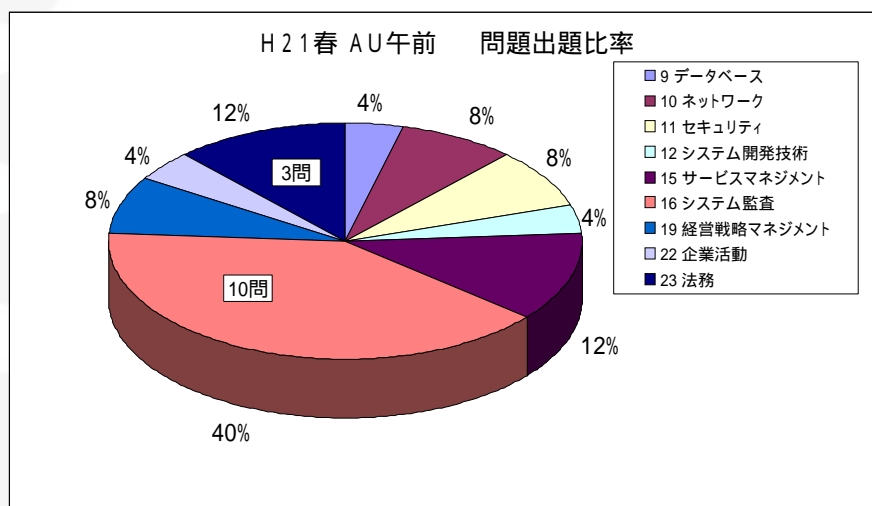
〔午前 の専門知識問題〕

午前 試験は出題範囲が決まっています、システム監査では技術的な内容も含めていることが特長です。監査の専門分野の問題は 10 問と少なくなっています。後で表に示すように受験者の 97.2% もの人が基準点の 60 点以上を取っており、非常に易しい問題だといえます。しかし、今後はもう少し難易度の高い問題が予想されますので、学習は確実に実施しておく必要があります。

新傾向問題としては、次の問題が挙げられます。

- 問 1 権限喪失者が削除されていることを検証する手続、
- 問 8 IT に係る全般統制
- 問 11 システムの障害対策
- 問 13 労働者派遣法で適切な行為
- 問 15 CSR (Corporate Social Responsibility)
- 問 18 LAN 端末のアクセスの仕組み

平成 21 年春期のシステム監査技術者試験 午前 問題出題比率



〔午後問題〕

・午後 問題の出題分野とテーマは、次のとおりです。今回から解答数が 3 問から 2 問に減りました。データベースやセキュリティ試験のように 1 問あたりの設問数など解答する量は増えていませんので、受験者負担は軽くなりました。今回は組込みシステムの出題はありませんでした。

- 問 1 ERP パッケージの監査 やや難
- 問 2 店舗販売プロセスの内部統制評価 普通
- 問 3 顧客管理システムの監査 やや易
- 問 4 システム開発の監査 普通

・午後 問題の出題分野とテーマは、次のとおりです。問 3 が一般的なテーマでした。

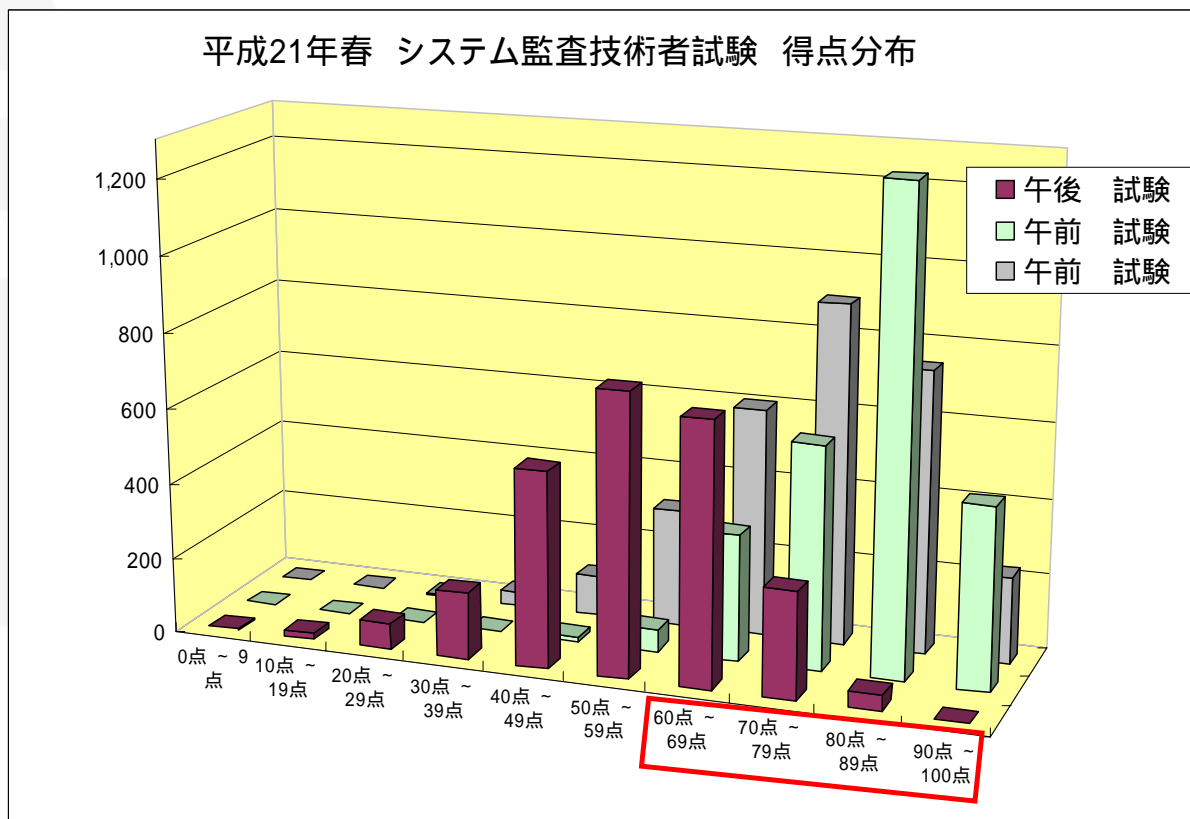
新試験では各設問に字数制限付き、設問ア：800 字以内、設問イ：700 字～1,400 字、設問ウ：700 字～1,400 字（PM 試験とは異なる）となっています。

- 問 1 シンクライアント環境のシステム監査
- 問 2 システム監査におけるログの活用
- 問 3 企画・開発段階における情報システムの信頼性確保に関するシステム監査

〔平成 21 年春 システム監査技術者試験 スコア分布〕

得点	午前 試験	午前 試験	午後 試験	午後 試験	合格者
0 点 ~ 9 点	0	0	3		
10 点 ~ 19 点	2	0	16	D	131
20 点 ~ 29 点	4	1	68	C	80
30 点 ~ 39 点	36	3	177		
40 点 ~ 49 点	106	13	520	B	348
50 点 ~ 59 点	311	60	745		
60 点 ~ 69 点	605	335	693		
70 点 ~ 79 点	900	591	283	A	455
80 点 ~ 89 点	748	1,268	43		
90 点 ~ 100 点	229	480	0		
計	2,941	2,751	2,548		455
対前試験比率		93.5%	92.6%		39.8%
午前 免除者(概数)	269				

合格者数	455	採点者数の割合	合格者数との差
午前 60 点以上合計	2,482	84.4%	2,027
午前 60 点以上合計	2,674	97.2%	2,219
午後 60 点以上合計	1,019	40.0%	564
午後 60 点以上合計	455	44.9%	0



得点分布を分析してみると、高度系共通の午前 試験で基準点(60点)以上の人は2,482人(受験者の84.4%)、午前 試験で基準点以上の人は2,674人(受験者の97.2%)と非常に高率になっており、問題の難易度としては全体に易しかったといえます。他の高度試験でも同じような傾向があり、今後は午前、午前 試験ともに、難易度が上がっていくのではと予想されます。また、午前 試験で基準点以上の人は、2年間午前 試験が免除になるので、次回の午前 を受ける人は全受験者の2~3割程度に減少すると予想されます。

午後 で基準点(60点)以上取れた人は40.0%で、前回の平成20年秋の試験の52.3%に比べ

て12%も下がっており、前回よりも得点しづらかったと考えられます。午後 で合格点の A 評価を取れた人は44.9%で、昨年の39.6%より増加しています。

今回合格された人

合格された方で秋のネットワークスペシャリストやシステムアーキテクト、ITストラテジスト、ITサービスマネージャ試験を目指す方は、まず午前 の専門知識について、なるべく早く試験対策を始められることをお勧めします。

新試験のシステムアーキテクト、ITストラテジスト、ITサービスマネージャ試験を受けられる方は、新試験の内容や出題範囲をよく理解して学習することが必要です。これらの試験は、午後 が論述式で、合格するために第三者の添削が欠かせません。アイテックの通信教育では必要なテキスト、模擬試験に加え、論文添削も行っていますので、ぜひご利用ください。

アイテックで出版している試験対策用の教科書（基礎テキスト）は新試験用にレベルごと分野ごとに新たに編集し直したものです。また、出題ポイントを効率的に学習するための「合格への総まとめ」、各試験別の予想問題集、本試験問題は新試験対策用に大改訂しています。これらすべての書籍が書店またはアイテックの Web ページでご購入いただけます。ぜひご利用下さい。

通信教育コースでは、教科書、問題集、模擬テスト（論文あり試験では添削含む）をすべて含んだ標準学習期間6か月の「総合コース」と、問題演習を中心に行うための最新問題集と模擬テスト（2回）を含んだ標準学習時間4か月の「速習コース」（短期コース）、午後 試験免除者対象に午後問題を重点的に学習する「免除者コース」など、教育メニューをたくさん用意しておりますので、ぜひご利用ください。

試験対策を受験対策のプロ講師がセミナーで行う「合格ゼミ」は試験対策のノウハウや専門知識の理解が深まると好評を頂いており、お勧めです。締切の近いセミナーもありますので、急いで確認しましょう。

各コースの内容は弊社のホームページからご覧いただけます。

<http://www.itec.co.jp/>

「合格への最短コース！ 合格ゼミ」

満員御礼になったコースもあります。お早めにお申込みください。

<http://www.itec.co.jp/howto/seminar/index.html>

今回残念ながら不合格だった人

まず、自分がよく理解していない内容について早めの学習が必要です。苦手な分野は、アイテック刊行の新試験用のレベル3の教科書（通信教育教材）でじっくり学習しましょう。

今回の午前試験の得点が50点～59点の人は、合格までほんとうに“あと一歩”のところまで実力が来ていますので、学習した知識が薄れないうちに、早めに次回試験の対策として復習を行い、新たに加わった分野の学習を始めましょう。

また、午後 試験の得点が60点に満たなかった人は、まず午前 の専門知識レベルで、午後試験問題を解答するのに必要な知識を確実に理解してください。また、午後 の論文試験でA評価でなかった人は、自分の経験を一度棚卸しして、どのようなコストや時間、メンバのマネジメントなどでどのようなことをして、どんな問題が発生したかなどを整理しましょう。アイテックの論文対策テキストでは、具体的な論文事例も含めて解説してありますので、ぜひ活用してください。

次に確実な解答を出すために、落ち着いて問題を解き、解答が正しいかを検証する力を付けま

しょう。新試験では選択範囲が広がったことで解答しやすくなるとも言えますので、チャンスが広がると考え、早めに対策を行いましょ。

なお、午後試験に強くなるには、時間を決めた問題演習やアイテックの模擬試験を会場で受けるなど、試験会場の環境を考えたうえで問題を解く訓練を行うのが有効です。

この他、アイテックで出版している「午前に出る情報技術」や予想問題集、試験対策を受験対策のプロ講師がセミナーで行う「合格ゼミ」、通信教育コースでは、午前試験対策テキスト、テスト（論文あり試験では添削含む）をすべて含んだ標準学習期間6か月の「総合コース」と、問題演習を中心に行うための最新問題集と模擬テスト（2回）を含んだ標準学習時間4か月の「速習コース」（短期コース）、午後 試験免除者対象に午後問題を重点的に学習する「免除者コース」など、教育メニューをたくさん用意しておりますので、ぜひご利用ください。

各コースの内容は弊社のホームページからご覧いただけます。

<http://www.itec.co.jp/>

「合格への最短コース！ 合格ゼミ」

満員御礼になったコースもあります。お早めにお申込みください。

<http://www.itec.co.jp/howto/seminar/index.html>

（以上）

